住宅診断で実地研修

調査手順などを確認

日本ホームインスペクターズ協会九州支部

NPO法人日本ホームインスペクターズ協会九州支部（上田勉支部長）は8月28日、姶良市加治木町の個人住宅を活用してRC住宅インスペクション（住宅診断）実地研修を行った＝写真＝。県内外の会員ら14人が、外壁や基礎の劣化状態の適正な診断手順や方法などを再確認した。県内からは7人が参加した。

同協会では、住宅診断を第三者的な立場、また専門家の見地から、住宅の劣化状況、欠陥の有無、改修すべき個所やその時期、おおよその費用などを見極め、アドバイスを行うホームインスペクター（住宅診断士）の育成・支援など実施している。本県での研修は、昨年に引き続き2回目。

研修は、築39年が経過したRC造2階建119・73㎡の個人住宅で実施。外壁や基礎のクラックや樋の漏れ状況のほか、建物内部の傾きなど、打診や目視などを通して建物のコンディションを調査。豊富な実務経験者らが中心となって診断方法などを指導した。

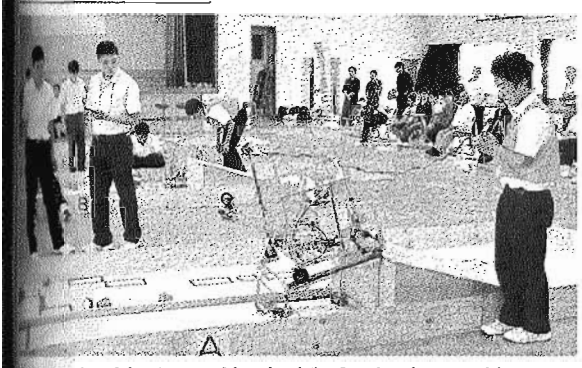
上田支部長は「中古住宅の流通需要が高まる中、安心して取り引きを行うためにも、状態を把握することが重要。住宅診断士のレベルの向上に務めていきたい」と話した。

また同日は、場所を鹿児島市に移して、座学研修が行われ、県内に事務所を置く、かごしま長持ち住宅ぷらすの茅野昌男代表が「住まいを科学して良いストックを」をテーマに講話した。

出水工高が優勝

県高校ロボット競技大会

県高等学校ロボット競技大会が8月31日、鹿屋市の田崎中学校体育館で開かれた＝写真＝。県内の工業系高校12校から15チームが参加。白熱した戦いが繰り広げられた結果、出水工業高校の軽技L－1チームが優勝した。



今大会では、三重県の英虞湾に代表される真珠貝（アコヤガイ）から真珠を取り出して、指輪などの装飾品に加工するまでを得点として競技することをイメージ。塩ビVU継手インクリーザー（真珠貝）の中から、テニスボール（小真珠）を取り出し、大真珠に見立てたバレーボールとともに塩ビソケット（装飾台）上に置き、ゴールエリアに戻るまでを競技。2回行ったうち、高い方の得点で順位が決定される。

選手らは、チームの仲間と声を掛け合いながら、船に見立てた自立型ロボットやリモコン型ロボットを巧みに操作し、工夫を凝らし製作した作品の力を最大限発揮しようと、真剣な表情で競技に臨んでいた。

事務局の伊東雅也さん（鹿児島工業高校教諭）は「大会を通して、技術力向上やものづくりに対する興味関心のさらなる高まりにつながればうれしい」と話した。

1位に輝いた出水工業のほか、4位までのチームは10月31日と11月1日に三重県で開かれる全国大会に出場する。

成績は次の通り（カッコ内はチーム名）。

優勝＝出水工業（軽技L－1）▽準優勝＝鹿屋工業（鹿屋工業メカトロ部）▽3位＝岩川（やこうくんず）▽4位＝加治木工業（蔵王岳2015）▽敢闘賞＝奄美（アマミノクロウサギ）

中村新支店長

確かな情報発信を

日銀鹿児島支店

中村毅史新支店長（右）と、中田勝紀前支店長

日本銀行鹿児島支店は8月31日、同24日付けの人事異動に伴い、新支店長として中村毅史氏が着任。中田勝紀前支店長とともに記者会見に応じ、「データ分析だけではなく、自分の目で鹿児島経済の実態を把握し、丁寧で確かな情報発信に努めていきたい」と抱負を述べた。

中村氏は東京都出身の47歳。1990年専修大学経済学部卒業後、入行。2002年からの考査局を経て、大阪支店企画役や金融機構局企画役などを歴任。妻が鹿児島出身で、2人の子供たちも鹿児島で産声をあげるなど「鹿児島は思い入れのある地」と語る。

また、「鹿児島の印象は豊かな観光資源に恵まれ、1次産業は全国トップクラスで、強いブランド力を持っている」とし、「さまざまな地域や幅広い業種の話しを聞いて、確かな情報発信を行うことで、このブランド力をさらに高めていきたい」と述べた。

金融市場局審議役兼国際局審議役に転任する中田前支店長は「多くの方との出会いが印象深かった。噴火警戒レベル4に引き上げられた桜島が早く沈静化し、観光業が復活することを願っている」と惜別の情を語った。

コンパクトなまちづくりプラン策定協

方向性で意見交わす

かごしまコンパクトなまちづくりプラン策定協議会（会長・石塚孔信鹿児島大学法文学部教授）の初会合が8月31日、鹿児島市役所であった＝写真＝。立地適正化計画の策定に向け方向性などについて意見を交わした。

同市では、医療・福祉施設や商業施設、住居等がまとまって立地することで、生活利便性の高いエリアへの公共交通アクセスの利便性を高めるコンパクトシティの実現を図る。総合計画や都市マスタープランを上部計画に、土地利用ガイドラインなどの下部計画と調整・連携を図る計画として位置付けている。

同計画は、都市計画区域全体を基本とし、その範囲で、居住誘導区域と都市機能誘導区域を設定し、区域を交通機関でつなぐイメージ。誘導施設は、病院や幼稚園のほか、スーパーマーケットなどを想定している。

概況や計画策定の方向性などが示された。委員からは「もともとコンパクトにできている。そうした地理を踏まえた検討も必要か」などの意見が出された。

今後は、12月上旬に第2回目の会合を開いたあと、住民説明会を実施。2016年度にパブリックコメント手続き等を経て17年度の運用開始を目指す。なお計画は5年ごとに見直すとしている。

技術者への道

きょうから 管工事施工管理技士編

きょう1日からの技術者への道は、「管工事施工管理技士」編をスタートします。

管工事施工管理技士編は、9月30日まで掲載をしていきます。

技術者への道

管工事施工管理技士

364

環境工学

【問　題】 空気環境に関する記述のうち、適当でないものはどれか。

(1)　一酸化炭素は、無色、無臭で人体に有害なガスである。

(2)　二酸化炭素は、空気より軽く、直接人体に有害ではない気体である。

(3)　揮発性有機化合物は、シックハウス症候群の主要因とされている。

(4)　浮遊粉じん量は、室内空気の汚染度を示す指標の一つである。

CHECK!!　室内の空気環境を問う問題である。一酸化炭素と二酸化炭素は名称が似ているため、混同しないように注意する。

詳しくは、建設管理センター九州事業部
0120・14・5353　HP http://www.ecc-jp.com

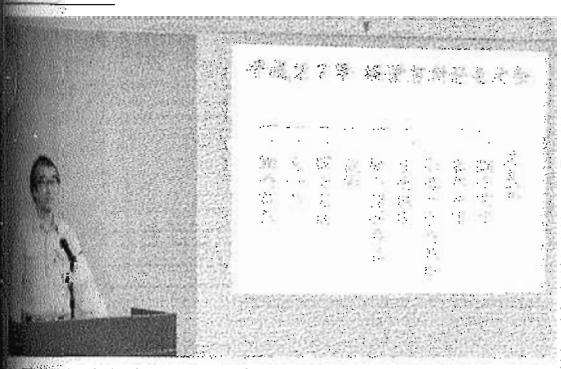
【前回の解答・解説】　正解　(1)
建設発生土は廃棄物として定義されておらず、したがって産業廃棄物にも定められていない。

経営方針発表大会

全社一丸で目標達成

クリモト

㈱クリモト（尾迫勉社長、肝付町）は8月22日、同町の本社会議室で経営方針発表大会を開いた＝写真＝。中期計画（2014－17年）に掲げる売上高50億円の目標達成に向け「30・50・次世代への挑戦」の経営基調のもと全社一丸となって取り組んでいくことを誓い合った。



会の冒頭、尾迫社長が「社員が経営理念をよく理解し、行動に移してくれたことで、14年度は中期計画の1年目として計画通りの38億5000万円を達成できた。今後も、営業・製造・管理部門がそれぞれ知恵を出し合い、新中期計画の目標達成に向け取り組んでほしい」と挨拶した。

引き続き、部門ごとに今後の営業・成長戦略が示され、「生・販・管」一丸となって第二次中期の初年度達成を目指していくことを確認した。また、河田健市さん（営業部門・福岡営業所）と福留浩二さん（生産部門・第二課）の優秀社員表彰も行った。